

【資料】

身延山歴代略譜（第二回）

(15才)

廿二世心性院日遠上人 日重上人剃髮ノ弟子」
京都ノ人也 姓ハ藤原石井氏幼名岩千代丸六才ニ
ノ出家ス」字ハ堯順又タハ堯純日珍ト自ラ号ニ
道」

御父入定院于亥日幽 天正四丙子年十月二日和歌ノ宗匠ノ家也ト」
御母殺勝院法妙日喜又ハ日悦ト 天正十五年正月十一日

京妙傳寺八世 本満寺十四世 飯高三世講經主ヨ

リ延山へ入」

慶長九 甲辰 年春三十三才 入山 在位五ヶ年」

寺中万代之法式廿一ヶ条 慶長九 甲辰 七月廿七日

乾遠兩師判形」

町中万代之提廿ヶ条 全年十一月七日定之」

西谷檀林⁽¹⁾万代不易之法式定⁽²⁾之⁽³⁾是⁽⁴⁾今⁽⁵⁾惜⁽⁶⁾録⁽⁷⁾ト云フ」

宗祖真骨ノ宝蔵⁽⁸⁾四方建立 慶長年中養珠院殿寄附」

祖師廟堂⁽⁹⁾八角全拜殿⁽¹⁰⁾三間全廊下 遠師ノ棟札ニ」慶

長十一 丙午 三月日祖師聖人ノ石廟從ニ堂地上ニ奉レ

移ニ」此塔頭靈地⁽¹¹⁾以⁽¹²⁾次⁽¹³⁾修⁽¹⁴⁾理⁽¹⁵⁾八角堂⁽¹⁶⁾者也」

身延山歴代略譜（北沢）

(19才)

會合所過去帳上中下三冊遠師代造之同師ノ筆」
厨子⁽²⁾十五間遠師建立棟札 黄金百両庫裏造營ノ」

助成⁽³⁾州加治左馬助丹治家信 慶長十三年戊申
冥則良辰」

慶長十三 戊申 年十二月退⁽⁴⁾院⁽⁵⁾大野」

大野本遠寺開祖 紀州養珠院初ハ蓮華院ト云徳川家康ノ愛妾ニ」
廟所埋葬地ナリ 於瀧ノ方塚ト云フ」

養珠院殿妙紹日心大姉 承応ニ癸巳年八月廿一日他界紀州領宜水
戸領房ノ一母堂身延乾遠通ノ三代大願功
有之」

又タ西谷岸中興開祖 紀州養珠寺 水戸大田蓮華

寺 仙台」法運寺 貞松蓮永寺⁽⁴⁾ 歴 千駄ヶ谷仙

壽院⁽⁵⁾ 各開山」最モ養珠院ノ 池上十六世⁽⁶⁾ 兼住

本門寺ハ日樹異流遷流ノ跡依ニ台命」住職ス山

ニテ迂化ナリ」

亨師ノ云ク乾遠兩師ノ在住都テ無ニ旧記 大野本遠

寺ニモ又無ニ記録」是ノ故ニ難レ知今依ニ草山集」

乾遠ノ録ヲ見ルニ十九世日道師ハ慶長」六 辛 丑 年

閏十二月十二日ニ迂化ス依レ之慶長七 壬 寅 春請ニ重

師ニ堅ク辞ソ」不レ応故ニ請ニ乾師、全年入山シテ翌

八年 癸卯 婦⁽⁷⁾京次ニ全九 甲辰」年請ニ遠師、春三十三

才ニノ入山ス在位五ヶ年ニノ全十三 戊申 年」十一

月十五日ニ有⁽⁸⁾淨土宗⁽⁹⁾与⁽¹⁰⁾平常樂院日經⁽¹¹⁾之法論⁽¹²⁾依レ

身延山歴代略譜（北沢）

(16ウ)

召至三「駿府ニ請ニ再対決ニ家康憤激ノ為レ宛ニ死罪ニ雖レ然四ケ」格言停止ハ不ニ請合ニ其ノ後蒙ニ宥恕ニ帰レ山直ニ退院」シテ隱ニ居大野本遠寺ニ全十四己酉

年乾師再ヒ入山位六ケ」年ニノ全十九甲寅歲隱ニ居西谷檀林ニ此ノ年祝師西谷化主ヨリ」入山在位

二ケ年四十九才ニテ慶長廿元和元ナリ乙卯五月七日迂化ス此年依ニ「台命ニ遠師再ヒ入山ス此ノ時南光坊天海僧

正井ニ録司金」地院崇傳等告ニ上意」書翰有レ之翌元和二丙辰年」亦辞ノ帰ニ大野ニ依要師小室ヨリ入

山ス依ニ右年限」者乾師ハ在位初ノ五年再ニ二年歟」

再住ノ次第」
道師三年(10) 乾師二年(11) 遠師五年(12) 乾師六年(13) 祝師二年(14)

遠師二年(15) 要師八年(16) 深師五年(17) 暹師廿一年(18)

慶長二十ハ乙卯年再入山 在位二ケ年」
元和二丙辰年亦辞ノ退院帰ニ大野」

寛永七庚午年池上日樹左遷ノ跡依ニ台命住山ス十六世ナリ」

全十九壬午年三月五日七十一才於ニ池上ニ入寂」

辞世 誰カ知ラン心ノ月ノ雲晴テ

静ニ光ル玉ノアリカハ」

自読一万余部部數身延寶藏ニ有之

〔註〕

(1) 飯高ニモ遠師御定ノ万代不易ノ式アリ

(2) 文政十二年焼失ヘ頭註

(3) 依テ十四年日乾師再入山ス

(4) 「千駒ケ谷」を「千駄ケ谷」と訂正

(5) 「休閑」を「休遠」と訂正

(6) 什門派京妙濟寺七世

常樂院日經聖人 不惜身命師ト云著述數多アリ

元和六年（八氏）十一月廿二日化

慶長十三年ノ秋頃浄土宗ノ塚道ナル者類リニ我宗ヲ嫉妬ス經師歎スルニ忍ス之ヲ糺明ス進ンテ善導寺等ノ五ケ寺ニ難問ヲ試ル然ルニ彼等法義ノ勝ツヘカラザルヲ以テ遂ニ芝増上寺廓山ニ付キ上訟ンテ吾法ヲ滅却センコトヲ哀請ス於是乎家康公我ニ命シテ曰念仏無間ト云フ法門確實ナル証文アリヤト我復命シテ曰ク証文モト顯然タラスト雖而モ義ヲ以テ之ヲ判スト云云公之ガ捧状ヲ廓山ニ与フ是状ハ是レ法花ノ潤色我浄家ノ恥辱ナリト云云公是レヲ聞玉フヤ土家甚タ非ナルヲ悟リ天台ヲ仰テ以

テ遂ニ東叡山建立奉アリト 金山抄 見口

次ニ更ニ武城殿中ニ於ケル彼等ノ暴悪ヲ發露セシ
曰ク同年十一月十四日經師台命ヲ蒙テ江戸ニ着ス
ルヤ彼徒隙ヲ窺フテ旅舎ヲ襲ヒ師弟六名ヲ乱打ス
哀哉頭腦ハ碎カレ手足ハ折ラレ魂（魂）ヒ殆ント消ナン
トス明レハ十五日戸板ニ乘シテ殿中へ引入彼レ虚
言シテ曰ク日経答ル能ハズンテ虚病ヲナセリト遂
ニ迫テ書判セシメントス師ハ既ニ半死ニシテ言句
ヲ出スニ由（由）シナク痛苦太タ堪スト雖モ更ニ之ヲ肯
ンゼス此ヲ以テ苦責ヲ加フルコト殆ント五十有余
日ニ及フ雖（雖）然敵トシテ猶（猶）ヲ之ヲ諾セズ遂ニ赦（赦）ル
シテ之ヲ放ツト雖モ遺恨尙未散明年京都ニ於テ師
弟ノ耳鼻ヲ切斷スルニ至ルト

此夏師ノ本尊脇書ニ有テ詳ナリト 見ノ者 住テ母 既ニ當時
法門ニ非ス棒門ナリト云世評アリト云フ （貼附）

(7) 事故アリ

(8) 在「位」か（私云）

(9) （入山ス）ト

(10) 入化トモ (11) 入退 (12) 入退 (13) 入退

(14) 入化 (15) 入退 (16) 入化 (17) 入化

(18) 入

身延山歴代略譜（北沢）

(17オ)

廿三世慧眼院日祝上人 遠師ノ門人初ハ日誦ト云
フ

慶長十九 甲寅 年乾師退院ノ後依レ命（命）西谷化主ヨリ直
ニ入山 在位ニケ年

翌二十 元和ト乙卯 年五月七日四十九才入寂

廿四世顯是院日要上人 遠師ノ門弟

父ト祐 文禄元壬辰八月十三日
母ト妙正 天正十一癸未正月五日

中村 正東山日本寺化主 京妙傳寺九世 小室山十
一世

元和二丙辰 年小室山ヨリ入山 在位八ケ年

要師梅松丸ナリ 字天慧ト云法性院日勇上人ナリ 慶安三
児童塔高サ二十間半 建立 七月七日總發リ今巳未年

十二月廿一 西ノ洞院參議時直卿ノ次男ナリ竹之房へ
住ス十五世京山科檀林護國教寺 開山京妙傳寺十

四世四十七才化ス当山三十世寂遠通師ノ御師範ナ
リ

七面山 法藏院日照 赤次妙福寺歴代

五重塔 三間四方 建立 元和四戊午年五月三日初ノ

十月戊戌十一月十三日ロリ 十五日マテ三日間塔供養ナリ 施主ハ加能越三國ノ大守松平

身延山歴代略譜（北沢）

肥前守」從三位中納言源利常ノ母堂 法名 壽福院殿

花岳日榮」大姉ノ建立也 寛永八年辛未年三月六日卒去

奥ノ院祖師堂 六間四面 全拜殿 七間半 要師建立 棟札」

施主ハ壽福院建立ト」

祖師堂家根替 元和七年西八月壬戌兩年諸國勸化學僧懸破

通本橋 二二間 全廊下 廿三間 要師建立」

元和九癸亥年七月五日四十八才入寂」

(18オ)

〔註〕

(1) 「祖師家」を「五重塔ナリ」と訂正

(2) 文政十二年焼失

(3) 新築力再建カ

(4) 文政十二年焼失

(5) (全) ヨリ廻 (廊下)

廿五世妙寂院日深上人 乾師ノ門弟子」

祖母妙仙 七月二日 父法親日性 慶長五年子四月廿六日

本師ハ 日明大徳文縁四乙未 堺奥覚寺ノ衆」

京本満寺十五世 六条檀林ノ化主 箱根本迹寺開

山」

元和九癸亥年 入山 在位五ヶ年」

大鐘 遠師代企シ之深師代ニ鑄レ之遠師ノ奉加帳土蔵

ニ有之銘者乾師ノ」作ナリ寛永元甲子年八月

如意珠日西谷ノ禪門道順諸國勸化ス存」命中

ニ不レ遂ニ所願シテ逝ス養珠院殿從レ初已来

加ニ助力ニ成就スト」

宗祖真骨之宝塔ヲ造作 寛永元年甲子十一月入用金等諸堂記ニ

寛永四丁卯年十二月廿八日五十四才入寂」

(18ウ)

廿六世智見院日暹上人 遠師ノ門弟 字隆恕」

拾要抄 西谷名目撰錄著作

父徳慶院宗府日聚 元和七年西六月九日 養母 学仙院法親日

母母敬院珠日遊 寛永三丙寅七月十一日 養母 学仙院法親日

本師ハ大扇房日治 三月二日 京本満寺」

應ヶ峰 小西 両檀林之化主 本満寺十六世」

寛永五戊辰年入山 在位二十一年」

二度目ノ不受不施論 寛永七庚午年二月廿一日巳午ノ期於ニ

自 身延日暹 全 日乾 全 日遠 全 薬原日東 玉沢日暹」

他 池上日樹 平叔日弘 中村 日充 化主 日進 小西

列座六人ナリ」

(19ウ)

聽主天海大僧正 道春法印 永喜法印奉行衆五人

日樹弥邪義ニ落居シ遠嶋ナリ

通本ノ二字額 大虚菴光悅寛永八辛未八月廿七日

妙見宮三間半建立 暹師棟札寛永十三丙子年八月廿五日

會合所二十間半 暹師棟札寛永十三丙子年八月廿五日 主日

遠上人李加 助力 養珠院殿今村傳四郎等ナリ

小方丈四方 修治 寛永十四丁丑年七月良日 日暹判形

対面所六間 次間五間 建立 暹師棟札寛永十五戊寅年 六月廿四日

施主松木受源院妙徳日行

三門十三間半 廊門二間半 建立 寛永十九年壬午六月十二日 建立成

就供養本願主甲府松木氏ノ母御助成金二百両 日遠上人日暹判形

千仏造立并全堂三間半 四方外ニ 願主 養

珠院殿千仏 并堂

三門十六間 羅漢像 日暹師開光 一体宛ノ施主有之

丈六ノ釈尊并四天王中正院日暹ノ作 堂四方 棟札日暹判形

但シ千仏堂ノ千仏ノ像ヲ寛文五乙巳年廿八世日奠上人ノ代至リ此丈六堂へ撰入シテ千仏堂ハ三光

身延山歴代略譜(北沢)

(20オ)

堂トス

一切経蔵六間 四方建立 正保二乙酉年閏五月廿五日日暹判形

浴室七間 新築造 正保三丙戌十月廿七日 日暹判形

逢嶋ノ祖師堂三間一尺 方 暹師發願建立棟札ハ慶安三庚寅年八月吉日日城判形

甲州富竹村大廣寺開山也 西谷善学院へ隠居ノ遷

化スト有レ之ナレト退蔵ノ年限不詳西谷檀林ノ

七世智性院日暹師ハ寛永廿年癸未十月廿四日遷

化ノ後絶講廿余年也廿六世日暹師隠居此院遷

化ス廿八世日奠師雖有談林再興ノ志願未果

迂化ス第廿九世筵師代再興ス興源院日遠ヲ談林

第一八世トナス講三文句寛文八戊申年也 慶安元戊子年五月廿九日六十三才入寂

〔註〕

(1) 日号を欠く

(2) 廊ケ條ニ

(3) 小西 九

(4) 守玄院

(5) 相馬へ配流

(6) 日樹ノ弟子

身延山歴代略譜（北沢）

- (7) 三河日賢ト云フ
- (8) 正中山ノ前任凡九世ナリ除歴
- (9) 日樹ハ朗檀寺ヨリ入山歎全寺ニ於テ不受不施ヲ衆人ニ示シ身延無間山ノ義唱ヲ依テ全年四月信州伊奈郡ヘ御預トナル与党ハ皆ナ被追放
- (10) 寛永八未年大士三百五十年（頭註）
- (11)(12) 文政十二年焼失ス
- (13) 代「二」を欠くか（私云）
- (14) 文政十二年焼失ス

廿七世通心院日境上人

字淑長

中村檀林ノ化主

慶安元 戊子 年入山

在位十二年

三門葺替 通師初テ建立ノ時ハ土瓦也屋根重ク又々寒氣破損ス故ニ改テ檜皮屋根トス

慶安二年 己丑 六月良日日境形 当町当国駿州ヲ勸化

ス

七面山ニ付

赤坂村兩畑村山境論所御奉行三上平七郎久留七良右衛門雨宮治良右衛門大築六兵衛ノ四人奉行立合見分ノ処久遠寺役僧正光院出翠七面岡地ノ傍ハ久遠寺ヲ配ニ被仰付候事 慶安四年

卯八月十五日御証文指上候

位牌堂三間半建立

慶安四年 辛卯 棟札 日境形

(21オ)

一切破経 輪堂破経ハ倭本 明暦二年 丙申 二月六日 身延山久遠 東叡山坂ナリ

日境形

堂ハ先年退師代ニ造立シテ有之

傳大士 昔成 之像 退師開光ナリ是モ藏経ヨリ前ニ安置スル歟

万治二 己亥 年十月廿八日五十八才入寂

〔註〕

(1) 中村惠雲円公ノ門人ニシテ飯高ヲ去テ中村ニ歸スル七十余人之上首ナリ

(2) 文政七年焼失ス

(3) 久遠「寺」を欠くか（私云）

廿八世妙心院日奠上人 始メハ日伝入山ノ時奠ト改 字宜道

中村檀林ノ化主 九世 加州滝谷十七世

西谷名目解 等著作

破奥論 母父 蓮池院法安砂隆 寛永十一 甲戌 十月廿六日

万治三 庚子 歳入山 時二月廿八日ト 在位八ケ年

往古ハ奥ノ院上ノ山ノ諸堂在ニ本堂祖師堂近所ニ狭隘羅列ノ見分モノ不_レ宜又奥院ノ道嶮難ニ_レ難_レ通

奠師代執事 堯達日精号ニ円正ニ院ニ与ニ貫主ニ相識

ノ開ニ諸所ニ平ニ嶮地ニ移ニ諸堂、又開ニ奥院道ニ広レ

之平レ之令レ易ニ往還ニ又ニ三光堂辺ニ至水屋上迄是レ

多ク他領ナリ水屋ノ上ノ山ハ下山村分ナリ計策

ノ当山ノ為ニ所領ニ植レ樹立レ社莫太ノ勲功也」西谷

「円正坊ヲ開基ス」

天照八幡社ノ事 初ハ片隈村ニ立レ社

其後今ノ折殿堂ノ地ニ引移ス 奠師代又開山ヲ

五重塔要節代位牌堂ノ奠師代寛文三壬寅年十月吉日今ノ地ニ移ス

施主ハ齋福院殿ノ彦子加賀守綱紀公此料八百兩御

寄附」

御真骨宝藏 此宝藏中古 在昔ノ拜殿ノ中央ノ地ニ奠師代寛文三壬寅年中」

円正院日精ノ相識ノ上後ノ山ヲ大分切ニ開之埋ニ東ノ方ノ

引建之」

靈宝藏三間 四方奠師代建立之」

東照宮三尺五寸新建 大分ノ筑地御邸直ノ御朱印拜受故ニ」

利女堂 本ト祖師堂ノ上ニ有之 寛文二壬寅十月吉日今ノ地

ニ移ス日奠形」

三光堂ノ拜殿 奠師ノ寛文三癸卯九月如常味日拜殿朽損故ニ新ニ

禮札 令ニ再建ニ者也又々種々年損スル故ニ潰之今ハ

身延山歴代略譜(北沢)

無之

奠師代祖師堂ヲ欲レ改ニ銅瓦ニ雖レ有ニ諸國勸化ニ有ニ事

故ニ不レ成」以ニ其集金ニ処々修營殘金五十兩ハ後代

石壇料ノ内ヘ用レ之トナリ」寛文三癸卯年正月」

三光堂 本ト千仏堂ナリ往古ハ祖師代位牌堂トノ間ノ上ノ山ニアリ」

丈六堂 往古ハ本堂ノ前ニ天門ノ側ニ有之 日奠形」

大黒天ノ堂 往古ハ祖師堂ノ上ノ山ニアリ奠師今ノ地ニ移ス」

惣門三間半ニ 新建 寛文五乙巳年九月吉日棟札日奠形」

施主ハ三浦志摩守明教ノ母壽應院殿」

釈尊位牌堂安置 寛文六丙午八月日日奠形棟札有之」

下馬札表門 奠師代初テ立之」

一切経蔵 往古ハ本堂ノ上ノ山ニ有之奠師代 移ス」

一祖師堂銅瓦葺ノ続キ」勸化寮ノ序 一枚代ニ及七分五厘ツ、

右作処ノ」銅瓦脱師代祈禱堂ヲ葺ク其ノ余残リ瓦

ヲ潰シテ省師代ニ水鉢」等トス又経蔵建立ノ時キ

其残リ瓦ヲ用イ不足ハ大坂ニ於テ求之」日寧師

代」

寛文七丁未年十月廿三日六十七才入寂」

身延山歴代略譜（北沢）

〔註〕

- (1) 日寛日鑑両上ハ法兄弟ニシテ中村庵ノ西法眷也ト
〔墨字〕 〈頭註〉
 - (2) 「義道」を「宣道」と訂正
 - (3) 谷中妙行寺開山ト
 - (4) 瓶建寺院ハ泉野常楽寺、卯辰三宝寺、蓮華寺、能
州柳田淨心寺、越中新川法光寺、妙輪寺（墨字）
〈頭註〉
 - (5) 廿 氏
 - (6) 安国院日躰上人 字恵雄、野呂廿世ト、日向へ諷
流在嶋三十三年、元禄十一 庚寅三月十日化七十三
才
- 寛文六 丙午 春破奠記上下二卷作、全年四月十七日
附ケ守正護国章ヲ寺社奉行へ獻ス四代家綱公ノ時
也
- 中古法乱ノ殿争猶ヲ甚タ猖獗ニシテ平賀日述小湊
日運碑文谷日晴奥津日蓮谷中日誠等再ヒ朋党ヲ結
ンテ不受不施ノ異義ヲ唱へ大ニ法乱ヲ惹起ス去ル
承応元 壬辰 年春先師境上委ク公庁ニ達シ糺明セラ
レタリシガ事未タ半ニシテ迂化ス故ニ導師再ヒ之
ヲ官ニ告テ以テ境上ノ躰ヲ統キ武府ニ停錫スルコ
ト三春秋其ノ間大ニ問難論詰邪ヲ開キ妄ヲ駁シ奥
門ノ一輩ノ邪義ヲ撃退スルニ頗ル努メラレタリ其

(22ウ)

- (7) 澹谷ヨリ
 - (8) 焼失ニ付再建、後ニ記ス
 - (9) 上ノ山カ
 - (10) 文政十二年焼失ス
 - (11) (大分) トハ余程カ
 - (12) 文政十二年焼失ス
 - (13) 朝師ノ建立ナリ
 - (14) (15) 暹師ノ建立
 - (16) 則チ上ノ山ナリ
 - (17) 則三光堂ノ前カ
 - (18) 暹師代建立
 - (19) 廟ハ上ノ山
- 廿九世隆源院日鑑上人 初ハ延ナリ 入山ノ時 筵ト改 字春山」
中村小西両談林化主」
- 父 道隆日妙 寛永四丁卯五月十七日
母 妙隆日法 寛永十七 庚辰二月九日
本師ハ教法院日悦 二十一日」

玉沢歴 京妙頭寺十五世^①

寛文七丁未年妙頭寺ヨリ入山 在位六ヶ年^②

奥ノ院祖師堂六間四方 拜殿七間半再建立 蓮師代^③

但シ別当寮孝東院 八間ハ新建ノ置番僧^④

西谷講堂七間半寛文九己酉年建立^⑤

江府安藤老岐守重常為ニ慈父伊賀守蓮行院殿追

善ニ喜捨黄金卷千兩ニ建立之棟札日蓮形但シ

檀林ハ八世一興源院日蓮代ナリ^⑥

常經堂五間四方 衆寮二間半 廊下二間 食堂五間半 新建立

寛文十庚戌四月廿四日 日蓮判形 深俗日慈

上ノ山宝塔一丈六尺 新建立 寛文十庚戌十一月月中旬 起立主

豫州松山城主松平隠岐守源定長為ニ悲母養仙院殿

了榮ニ妙護日立大姉菩提建之棟札日蓮形^⑦

上ノ山常唱堂三間半 衆寮四方 寛文十二壬子三月廿八日 新建立

本願 無安日養 日蓮形^⑧

宗祖御真筆御文章 卷本九十五卷 束テ卷百三十二^⑨

古法眼越前守元信ノ絵座鋪小方丈也 蓮師代恐レ有ニ火

身延山歴代略譜 (北沢)

(23ウ)

盜難并ニ損ニ取レ之表補為ニ大小三十二幅ニ土藏收之^①

石壇二百八十七枚 蓮師通師兩代ニ成就ス

寛文十二壬子三月廿八日閑居ス六十四才ノ時 延宝九辛酉年正月廿七日七十三才羽州和田ニテ化^②

(註)

(1) 才十九嗣法トナリ

(2) 甲州円井村妙淨寺ノ開祖トナル

(3) 施主將軍家綱公御台所円明院天真日存尊儀也 奥ノ院搥椎寛文八戊申応鐘如意珠日日蓮判形

(4) 奠師代

(5) 是ハ明治八年火災ニ付一時本院ヘ引仮祖堂トス今ハ釈迦堂是也(昭和五十四年解体す、私云)

(6) 尚又能化寮ハ妙了寺十五十八世中道院日秀檀信徒ヲ勧誘シテ建立ス明治八年火災ニ付本院ノ仮厨司トス且ツ玄寮妙玄庵モ本院ヘ引キ仮方丈トス然ルニ明治十五年十一月廿四日昼厨司ヨリ出火此ニ夕棟ハ灰燼トナル

(7) 御廟上ノ山蓮師堂アリ

三十世寂遠院日通上人

字玄海

身延山歴代略譜（北沢）

父 円喜院宗悦日慶 九日
母 文 円喜院宗悦日慶 九日

師範ハ法性院日通上人要節ノ弟アリ慶安三庚寅十二月廿三日北山科座開祖ニシテ妙傳寺ノ十四世

山科座二世 水戸座三世 飯高座十五世一 京山田

真如寺開山ナリ」京妙傳寺十六世 池上二十世

但シ身延池上比企谷ノ三山兼職ス」

寛文十二壬子年池上ヨリ入山 在位八年」

稚児童弟子 玄潤日法師」

奥ノ院別当 学林院日悦」

大鐘ノ堂建立二間 寛文十三癸丑年十月八日棟札日通判形 香部ヤ九尺二間施主吉市場村大久保助右衛門

二天門六間半再建立 棟札無之年曆不詳」

施主養仙院殿了榮妙護日立大姉」

七面明神本宮三間半 四間半 弊殿二間半 四間 廊下二間 四間

御供屋三間 四方 庫裡六間半 八間半 客寮籠り屋」池之太神宮七尺 二間

隨身門三間半 四間半 椎鐘 并ニ 堂九尺 四方

右一式建立通師ノ本尊宮殿之内ニ有之七面社造營遷座」之時収之 延宝三乙卯年八月上旬八日日通形判

七面山神祠修營之跡大中院日孝形判有之鐘ノ施主

ハ」仙石越中守政明ノ室ナリ三全銘ハ大中孝師ノ

(24ウ)

作」堂ノ施主大宮村渋谷又左衛門」

隨神ノ像二鉢 通師開光施主ハ中川佐渡守久恒ノ室

ナリ」門ノ施主ハ小笠原村 内藤氏」

影向石ノ社造立 日通形判山本坊日逢小社造立ス」

塔中ノ釈迦堂九尺 延宝丙辰十月吉日棟脚堂常在 四方 施主吉町九日棟中 日通判形

奥院鐘之堂二間 老尺 延宝五丁巳十月九日棟札 日通判形

施主ハ本願并助願主別記」

上ノ山之金仏之積尊ノ像 延宝五丁巳年十月十五日 施主」京極信濃守高勝 三十世日通代造立」

〔朱字〕「延宝五年十一月自七日至十三日一周間修三大法会十四日施食放生会并ニ説法水戸靖定山久昌寺開堂供養久昌院殿十七回忌正当也水戸公説岐公心屈請彼地へ出向ス勤之」

延宝七己未年二月十一日六十六才江戸瑞輪寺ニテ入寂」

〔註〕

(1) 鷹峯座十五世

(2) 文政七年焼失ス

(3) 孝師ハ元政上人ノ弟子、駿州元吉原妙法寺ノ三世

瑞輪寺ノ十世小湊山廿六世水戸座西谷飯高三十一

化主 西谷在檀ノ作歟

三十一世一圓院日脱上人 字空雅

越中宇波村之産 水見徳ナリ姓我野氏水見町蒲栗寺ノ檀越ニシテ今
主ヲ我野五平ト云フ一其ノ高祖ヨリ檀徒三十余家
皆ナ我野ヲ目シ今
ニ全寺ニ風スト

母 宗財院道祐日玄 明暦三丁酉七月十一日

師範ハ本是院日理上人 加州本是寺開山中村玄藤藤隆文錄
明暦元乙未三月朔日

山科庠化主 京立本寺卅三 駿州元吉原妙法寺開

飯高十八世」後ニ甲州粟倉村寂遠山一円寺開山」

延宝七己未年京立本寺ヨリ入山 在位二十年

稚児童 竹松丸 亀松丸 兩人ハ高祖四百遠忌ノ見也」

全上リ弟子 空玄日流 元禄五壬申
十二月十一日死

奥院別當ハ不借院日命」

院代 善應院日誼聖人 正徳五乙未七月六日化」但シ脱師
草柳村善應寺開山

ノ閑居所一円庵ヲ創立ス遂ニ不レ移シテ化依テ善

應院二世トナリ全庵ニテ化ス」

十二時ノ鐘 井ニ堂九尺 番寮三間 脱師代新建立」

施主ハ 津州松山ノ城主松平昭岐守定長
勢州桑名ノ城主松平越中守定直ノ母公養仙院殿也又

夕椎鐘」役人ノ資糧御寄附ナリ 延宝八年 庚申中

秋日脱判」

金像之祖師 日脱判是ハ本ト安置奥ノ院ニ後ニ移ス高座石」

身延山歴代略譜 (北沢)

高祖四百遠忌 天和元年西年十月七日ヨリ至十三日一旬周間」
大法会執行動之

祈禱堂外ニシ五尺ノツ 番寮二間半 廊下九尺 新建立 此地ハ
本ト天

照ノ八幡社」脱師代貞享年中新ニ建立シ為ニ天下安全
ノ古蹟ナリ」妙法広布一定三十六人」僧ニ昼夜不断説ニ誦妙経ニ

日本國中變シ多シ御祈禱所 不断説ニ誦」
野王ハ恐ラクハ但限ニ当山云云

本尊者积尊五番神祖師像也 貞享四丁卯十二月廿四日」
日脱判形

妙経三十六部并机祈禱堂掛リ三十六坊結衆脱師
各々勸ニ施主ニ」新ニ三十六坊ヲ建立ス金子方丈ニ

預リ借シ与フ以ニ利子ニ各坊へ遣ニ」扶持」又加ニ修

覆」以外ニ祠堂有之悉クハ如ニ別記ニ坊名ハ」

施主松平下總守清良母儀 上ノ山 瑞光坊
為ニ瑞光院菩提建立

全松平相模守光仲ノ室 全 芳心坊

芳心院殿妙英日春 全 慶雲坊

全酒井遠江守 母 慶雲院殿好栄日通 全 慶雲坊

全阿弥与左衛門 全 長安坊

覚樹院道喜日長 全 妙應坊

全松平下總守清良母儀 全 妙應坊

妙應院殿春貞日威 全 法園坊

全江戸 浄心寺日念聖人 全 法園坊

身延山歴代略譜（北沢）

(26才上段)

(25ウ下段)

全不知	全	清玉坊』
全不知	全	忍脱坊
不足ニ付脱師建立ト	全	貞俊坊
全御本丸梅ノ方之侍女	全	春光坊
妙香院貞俊日玄	全	春光庵
全御本丸梅ノ方	全	芳春坊
妙梅院殿春光日恵	西谷	信了庵
全永見新右衛門	全	本学坊
華光院詠春日陽	全	洪谷坊
全中川佐渡守ノ奥局	全	宗幸坊
芳春院妙陽日悟	全	真善坊
全京欲賀作十郎	全	松玄坊』
信了院道察日源	全	仁淨坊
全落居村本照寺ノ隠居	全	妙善坊
本学院日栄	全	
全大官町	全	
洪谷平兵衛外三人	全	
全江戸長崎ヤ平左衛門	全	
宗幸 妙幸	全	
全稲葉石見守	全	
真善院大壽日賢	全	
全吉原渡辺市良右衛門	全	
松久院淨玄日清	西谷	
施主紀伊大納言光貞ノ室	全	
天真院殿妙仁日雅	全	
全江戸	全	
円盛院妙善日修	全	

(26才下段)

全加賀ノ侍女中山女	田代	中山坊
法蓮院妙啓日心	全	宗賢坊
全野沢弥右衛門	全	長松坊
全傳五右衛門	全	清耀坊
全松平隠岐守母	全	宗林坊』
長松院殿妙樹日栄	全	長壽坊
全仙石越前守政明ノ室	全	淨蓮坊
清耀院門珠日淨	全	觀松坊
全江戸木内七兵衛	全	常榮坊
理心院宗林日淨	全	実道坊
全中川佐渡守久恒	全	見塔院
長壽院殿妙隠日慶	全	高雲坊
全富士郡清八良右衛門	南谷	高雲坊
父淨蓮舎兄蓮心サ女ノタメ	全	見塔院
全八代前嶋三良右衛門	全	春窓坊
松樹院 觀樹院	全	清閑坊
全稍進川佐野五兵衛	全	
常榮日正	全	
全河原口村清九良右衛門	全	
久遠日実 道作日是	全	
全今村傳三郎室	全	
高雲院了月日心	全	
全	全	
見塔院殿妙蓮日宝	全	
全稲葉美渡守子息イク十郎	全	
梅香院春窓日芳	全	
全小河原内藤与治兵衛	全	
清閑 妙閑	全	

全猪根正行寺隱居
頭成院日照 東谷 頭成坊

全仙台陸奥守綱村室
萬壽院殿 中谷 仙臺坊

右三十六坊貞享年間一時ニ新建立也』

元禄四辛未年四月廿八日悲田供養之新義企テ停止被

仰出事」小湊ノ日映碑文谷ノ日附谷中ノ日遼唱ニ

異流ニ脱師糺ニ之公庁ニ』

元禄六癸酉年五月六日宗門 禊與紫衣参内賜ニ綸旨ニ』

追分寮脱師棟札 元禄六癸酉十一月七日道智庵日立智円日恵』

但井水者貞享四丁卯年三月十九日午刻依祖師并七面明神ノ夢想ニ
涌出歌ニ此処無ク本教年願求靈感也

鼓樓二間 四方 新建元禄五壬申十月八日 日脱判』

施主武江神田ノ住信女榮壽現安後善ト』

願主堂三間四方 外楹三尺 日脱上人ノ影堂也元禄八乙亥年春季秋中付建立

玄金合所ノ式 台新建立 施主中川佐渡守久恒ノ室』

古仏堂四間ニ四間半 外楹四方三尺五寸 新建立 元禄九丙子四月日 助願』三

十四人本願五人 古仏収レ之新仏モ又有之』

靈宝蔵四間 拜殿三間半 脱師代判 山崩レ破損故改造之』

東宝蔵三間半 右山崩レ潰之此時陶器等損失多シ 脱師形 依テ造改之』

身延山歴代略譜 (北沢)

元禄十一戊寅年九月廿二日七十三才谷中瑞輪寺ニテ
入寂」但身延鷹取山ノ麓へ一円庵ヲ開基スト雖移
居ナクシテ化ス院代日誌居之ヲ化』

〔註〕

① 通脱兩尊ノ院号勘考

② 身延在山中横濱長者町榮玉山常清寺ノ開祖ナリ吉
田新田開闢主吉田勘兵衛号運千院殿常清良信日良
大居士祖父安元ノ頃着手經營十有三年ニシテ大成ス
埋立地石高一千三十余石万治三年村落ヲ形成ス
尚又千住運千山真養寺モ吉田氏ノ開基ト 〔頭註〕

③ 院代ノ始メ

④ 明治 欠 年転寺ス

⑤ 文政七年焼失 〔頭註〕

⑥ 明治八年焼失 〔頭註〕

⑦ 五代綱吉公代ナリ自ハ 身延日現代 池上日現代 但シ対決ハ無
之歟 〔頭註〕

⑧ 東山帝ナリ

⑨ 上人京立本寺ニ在ヤ吉良上野ハ朝ニ事フ平常上人
ノ法席ニ伺候敬親ス上人モ亦愛撫ス身延瑞世セン
トスルヤ上野ヲ召ソ日吾今將ニ身延エ榮転ス願ニ
吾宗未タ参内ノ儀式ニ預カラス天顔ニ咫尺スル榮
ヲ獲ス遺徳トス幸ヒ卿ハ朝廷ニ事フ吾為ニ幹旋ノ

身延山歴代略譜（北沢）

勞ヲ取レト上野欲諾ノ微力ヲ尽シ師ノ平生ノ恩遇ニ報ント其後遂ニ上人ノ参内ノ榮ヲ博シ日宗空前ノ盛儀ニ預ルコトヲ獲タルハ吉良上野介ノ力与テ多キニ居ルト云フ 日檢上人ノ代虫干ニ際シ古記録ヲ披キ蠹蝕殘簡中ニ偶々発見スト

昔元禄ノ當時（朱字）元禄十五年十二月ノコト「彼カ赤穂浪士ノ為ニ非命ノ最後ヲ遂タルヲ憫ミ乃十一月十四日即チ銃殺ニ逢フ日ヲ以テ満山大衆ノ法会ヲ修ン厚ク其怨魂ヲ吊ストナン（貼附）

(10)

東山天皇宝算二十才ト

（朱字）「参内之当日ハ五月十八日ナリト」

身延山久遠寺者為日蓮法華一宗之大導故著「紫衣令 参内宜施大乘經王之法威特 奉祈」國家安全 宝祚延長依」

天氣執達如件」

元禄六年五月六日 右中辨」

妙法華院住持日脱上人」

御房」

（朱字）「又或ル書ニ参照ノ為記シ置」

著紫衣令 参内宜 奉祈 宝祚延長者依」

天氣執達如件」

元禄六年五月六日

右中辨」

身延山久遠寺」

（朱字）「坊城俊清カ」

妙法華院住持日脱上人」

御房」

〈貼附〉

- (11) 文政七年焼失ス
- (12) 文政十二年焼失ス

52号「身延山歴代略譜」正誤

361		360			359		頁
下	上	下	上	下	上	段	
7	1	10	17	10	5	2	17
何ンソヤ	推レサテ	シカシカ	何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	有レ之	誤
(註6)	(註3)	為メ	何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	有レ之	正
		(註8)	何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	「宗祖」以下「すぎ」	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	(13行) 迄は朱字番入れ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	である。	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	止メ玉フ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	(削除)	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	宗仲カ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	為メ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	シカシカ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	推サレテ	
			何ンソヤ	何ンソヤ	推レサテ	何ンソヤ	

		370 頁	
		上	段行
10	入寂』(7)	1	辞 <small>シテ</small> 誤
9	上座』 ……旧跡』云々	6	大上人
7	退院(6)	7	聖人
5	妙覚』寺日奥(4)	11	法脈(註1)
4	」(3)	12	全三
17	孝順』(1)	17	孝順(1)』
12	同三(註3)	11	」(3)』
11	」(3)』	7	妙覚』寺(4) 日奥
7	」(3)』	6	棉京ス(6)
6	」(3)』	5	」(3)』
5	」(3)』	4	」(3)』
4	」(3)』	3	」(3)』
3	」(3)』	2	」(3)』
2	」(3)』	1	」(3)』
1	」(3)』	0	」(3)』